



イタリア・ミラノで歯科技工士をしています

鈴木幸子 (S61年卒)

イタリア・ミラノの歯科医院に歯科技工士としてお勤めの鈴木さんに、イタリアでの生活をお聞きしました。

友人とイタリアに三ヶ月の語学留学をして、この国の心地よい空気感を満喫。「また来たい」と思える充実した経験をしました。帰国後、歯科技工士を目指し、掛け持ちしている仕事の合間や深夜に集中して勉強し、四ヶ月間で国家資格を取得。研修生として経験を積んで、四十一歳の時ついにあこがれのイタリアに移住したそうです。

外国で暮らしていると私達には当たり前の事が、実は私達日本人しか持っていない事なのだと気付かされることがあるそうです。東日本大震災の報道で見た、日本人の他人を気遣う心や強さを自分たちも知りたい。そうありたいと思う人が増えているそうです。そんな私達日本人の良さをもっと知ってもらえたらと、職場の同僚や後輩に日本文化のすばらしさを伝えようと試みているそうです。

夢見がちだった高校時代は、ピアノ、バイオリン、声楽、絵画や華道と沢山のことを九里で経験しました。そのことが今の好奇心旺盛な自分にしてくれたそうです。「この先がどうなるか分かりませんが、疲れたら時々休みながらも、学ぶ気持ちだけは持ち続けて行きたいと思います。それが人生を豊かにしてくれると信じているからです」と語ってくださいました。

(S五十九年卒 新井千香代記)



部活動紹介

茶道部

顧問 佐藤 由美

お茶を視点として学ぶ



私達茶道部は、多くの先輩方の実績のもと、長年活動を続けてきました。部の活動では、表千家の茶道の先生である大石喜子先生から御指導を受けています。現在、二年生が

四人、一年生が四人の八名で活動しています。一年生に男子の部員が二名いますが、茶道の世界では珍しいことではありません。普段は、茶道のお点前はもちろんのこと、千利休から数えて四代目に表千家と裏千家に別れたことなど、茶の歴史にも触れています。そして抹茶が昔は薬であったことなど、お茶に関わる多くのことを学んでいます。

今年、新しくお茶室ができたことで、大変生徒達は喜んでおり、ますます活動に意欲を出しているところです。